

生徒が取り組む支え合いの学び —学部と附属中学校の連携を通して—

沖野 芳江

A Report on Junior High School Students' Peer Support Activity

by

OKINO Yoshie

(Received December 17, 2003)

キーワード：保健委員会活動、支え合い、相互援助力、ピア・サポート

1 研究のねらい

(1) 保健室で出会う子どもたち

養護教諭として本校に赴任して1年目。あわただしい4月の学校行事や、定期健康診断関係の行事が次々と展開されていく中で、現場では毎年新しい出会いがある。

本校の生徒は、様々な行事や公開授業などを通して、堂々と人前で発表したり、あるいは企画から運営、まとめまで自分たちでこなしていく力を持っている。教室では胸を張って自分の意見を言い、全校集会では全校生徒の前に立ち臆さず語る。

そんな彼らが保健室では頭痛、腹痛、胃部不快感、疲労感、友人とのトラブル、部活での人間関係の悩み等々、様々な訴えを抱えて来室し、ぐったりと腰掛けやソファに倒れ込むように座る。チャイムのない本校では、授業の始まりは各自の自覚により行動する必要がある。しかし、そんな時はこちらが強く促すまで、なかなか腰が上がらない生徒もいる。ベッドでの休養が必要と判断するケースや、相談時間を確保する場合もある。

本校に校区はない。山口市、小郡町の他、下関市、萩市、宇部市、防府市、秋芳町、徳地町、阿東町など遠方からの通学生もいる。通学や夜遅くまでの学習や塾通いなどが原因で睡眠不足による体調不良の訴えも多い。また、校区がないということ、つまり地域でのつながりがほとんどない本校の生徒にとっては、学校生活の中での人間関係の比重がとても大きい。そのため、学校は彼らにとって豊かな人間関係を学ぶ貴重な体験の場であるが故に、そこでの友人とのトラブルや挫折感はかなり大きいダメージにもなる。

この生徒たちの日常生活に関わりそのきらめくような感性に触れるにつけ、中学校3年間の生活において、入学式の日には生徒会長が話していたように、“自分が確かにここにいるという意義を見つける”ための何らかの支援をしていきたいと考えた。

(2) 本校の研究主題とのかねあいから

本校では今期、「ともに在ることを大切に学校の創造—学校のよさをとらえ直す—」ことを研究主題とし、次のような研究仮説を設定している。

「物事・他者・自分と出会う多様な体験の場」という視点から、学校の全教育活動を創っていくことは、自分らしさに気づき、つくり、磨きながら他者との関係の中で生きていく力を育むことになる。

今期のこの研究は、いわば学校の全教育活動を見直そうとしている研究であり、集団作りや人間関係作りから手がけてきた経緯がある。「多くの他者がじかにふれあう」ことを学校の価値としてとらえ、縦割りの活動をはじめとして、学校の中に多くの人と出会える場面をたくさん作ろうという試みがなされてきた。“ともに在る”というテーマは、なかなかとらえどころのない難しいテーマではあるが、共生という言葉を含み込みさらに学校を原点から見つめ直すような要素を含んでいるように感じられる。

本校の生徒は、この研究主題を、どのように自分たちのこととして受け止めているのだろうか。中学生の彼らがこのテーマを自分たちの課題として追求していくとすれば、どのような活動から入ることができるのだろうか。

4年次にあたる今年度の研究では、もういちど教科という中で物事・他者・自分と出会う体験を組織し直す試みが展開されている。そのような状況において、保健室は子どもたちの声を土台にしながら、学校全体の組織をつなぐ役割を担っていく位置にあるのかもしれない。それぞれの場をつなぎ、様々な機能が効果的に発揮できるように、その間をつむいでいくといったようなコーディネート的な役割が必要なのではないだろうか。

(3)実態と本校研究主題をふまえて

心身の成長発達の著しい中学生時期は、深い部分で自己と向き合い、自己確立や自立を目指していこうとする時期でもある。本校生徒にとって中学生としての自分作りのために他者とのよりよい関係作りが不可欠であると思われる。そこで、個を大切にしながら集団を育てていく教育保健活動を展開していく中で、他者との関わり方や相互援助の方法について学んでいくなれば、自分を大切にしながら他者をも大切にする生徒を育てることができ、本校研究主題「ともに在ることを大切にする学校の創造」に迫ることができると捉えた。

黒沢幸子氏は、著書「指導援助に役立つスクールカウンセリング・ワークブック」(2002年金子書房)の中で次のように語っている。

大人がいくらがんばっても、子どもの世界のすべてに手が届くわけではありません。子どもの力をもっと活かしましょう。
「ピアサポート」は、子どもたち同士が援助の人的資源となる活動です。

そこでひとつの試みとして、生徒会保健委員会という子どもたちの活動を中心におき、附属中学校ならではの、子どもの持つ力を引き出せるような取り組みをしたいと考えた。具体的には、保健委員会の子どもたちが仲間同士の相互援助の必要性や方法を、学部専門教員の力を借りながら学び合い、ピア・サポートとして全校生徒に発信する実践プランを構想した。

2 実践研究計画と経過

(1) 保健委員会の活動テーマの設定について

本校では、年2回7月と2月に学校保健委員会を開催している。そのうち、7月の拡大大学校保健委員会は保健委員の生徒が中心になり、全校生徒、保護者、全教職員に発信する手作りの会として企画から発表までを運営している。この生徒の手による拡大大学校保健委員会を支え合いについての学びの場として計画を進めることになった。

まずは、テーマ設定からスタートである。前期の始まりのあわただしい時期ではあるが、話し合いには時間をかけた。この話し合いは、3年生を中心に昼食時間を活用し、何度も保健室で行われた。本校の「ともに在る・・・」という研究主題に沿うものとして、ともに在る仲間どうしが、互いに支え合える関係作りに焦点は絞られていった。彼らの話し合いで打ち出されたテーマは、「支え合おう～友と家族と先生と 広げよう仲間たちへ～」であり、これを毎月行われる実行専門委員会の話し合いにおいて1年2年の保健委員会メンバーに提示し、今年度の自分たちの課題として取り組んでいくことが決定された。

さらに、実践に向けて次のような計画が立てられた。

①当日の活動については、演劇・発表を2つの柱とする。

②24人の保健委員を5つの班にグループ分けし、準備を進める。

(実態調査班) (アンケート集計班) (考察班) (シナリオ作成班) (演劇班)

③スーパーバイザーの役を教育学部の友定保博先生にお願いし、代表者が連絡をとりアドバイスを受けながら取り組みを進めていく。

主として、この役割分担により活動し、月1回の実行専門委員会で活動内容を持ち寄り、全員で意見交換し検討しながら拡大大学校保健委員会の開催に備える。

(2) 実態調査の項目検討について

今回のテーマに少しでも近づくため、実態調査班のメンバーは調査項目についての検討を始めた。ともに在るための個をなす自分、そして自分の存在がここにあることの意識、学校で友達といることが幸せであるような学校作り・・・そういった意見が交わされるうち、他者とのつながりを考えたり、他者とつながるためのプロセスを引き出していくための調査として、悩みに関する調査項目が上がってきた。

- | |
|-----------------------------|
| Q1. あなたは悩みがありますか。 |
| Q2. Q1で“はい”と答えた人は具体的に何ですか。 |
| Q3. その悩みを誰かに相談しましたか。 |
| Q4. Q3で“はい”と答えた人は具体的に誰ですか。 |
| Q5. あなたは何か悩みを相談されたことがありますか。 |
| Q6. Q5で“はい”と答えた人は具体的に誰ですか。 |

この悩み調査の結果から、支え合うということの実際や、自分たち自身の中学生像がはっきりと見えてくるのではないかというねらいがあった。しかし、悩み調査の項目を考える過程で、彼らから出てきた意見の中には、自分たち中学生は自立に向けて成長発達する時期にあるのに、自分の力で何とかしようとせず、誰かに悩みを相談するということは、それに逆行する行為になるのではないかというものがあった。そこで学部へ連絡をとり、「自

立」について中学生の自分たちはどうとらえたらよいか友定教授から示唆を受けた。
以下、友定教授から生徒へのアドバイスである。

「自立とは適切に依存できること」

中学生という時期は、依存性を残しつつも、認められたいという欲求が強くなる時期でもある。またその一方で人と同じようにしておかなければという気持ちもある。そういう複雑な面を併せ持っている時期ともいえる。特に本校の生徒は、親や教師の願いを背負い、頑張りすぎている傾向も伺える。これから成長し外の世界に旅立つ君たちにとって、ただひたすらに自分の力だけで頑張ることは、真の自立、生き抜く力になっていくだろうか？他に全く頼ろうとしないことが自立なのではなく、適切に依存できることを学ぶ、体得することが大切なのではないか。

適切に依存するということ・・・自立と依存し合う関係は、対立しているものではない。適切に他に対して依存できる能力を持つ人はうまく自立もできている。確かにそうかもしれない。いい子で、頑張り、手の掛からない子が必ずしも自立できているわけではない。ともに在る子どもたちの人間関係の中に、上手に支え合うためのつながり方の術をとり入れることができれば、自立へ向けての助けになるだろう。「あなたがいてくれたから」「あなたのおかげで」という関わりが持てたとき、子どもたちは自分の存在というものを、支えた側も支えられた側も肯定的に受け止めることができるのではないか。

友定先生の言葉をヒントに、悩み調査はようやく実施する運びとなった。

(3) 拡大学校保健委員会開催へ向けて

以下、本番までの生徒の活動状況である。

- 5月19日(月) 友定教授にアンケート調査内容を持参し受指導
- 5月21日(水) 生徒総会の場で保健委員長より取り組みについてPR
- 6月2日(月) 実行専門委員会にてテーマや役割分担について検討
- 6月9日(月) アンケート調査実施、回収
- 6月10日(火) アンケート集計・考察、それをもとに演劇のためのシナリオ作り
- 6月11日(水) 友定教授にシナリオ持参し受指導、当日の講師を依頼
- 6月12日(木) シナリオ書き直し、友定教授にFAX送信
- 6月20日(金) 保護者へ向けての案内状の前文検討
(保健委員会としての取り組みの主旨を伝えたいという思いから)
- 6月23日(月) 保護者への案内状配布、当日の流れについて話し合い・役割分担
- 7月1日(火) 2年生により準備と役割確認
- 7月10日(木) 終学活後、発表者リハーサル

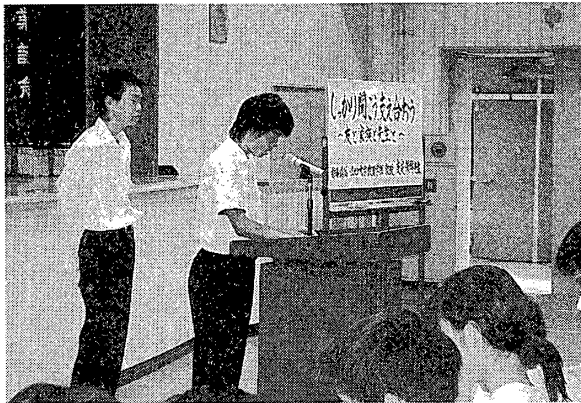
6月20日の保護者へ向けての案内状の中に拡大学校保健委員会に対する生徒たちの思いを織り込みたいという気持ちから、生徒たちとの話し合いを持った。生徒からは「拡大学校保健委員会」という名称は、少し硬い感じがあり、保護者にすれば何となくPTA役員への案内状のように思われるのではないかという意見が出された。そこで、今回の拡大学校保健委員会では自分たちの手作りの会という感じが伝わるようにという願いを込めて、「子どもたちの健康を考える会」という名称を使ってみることになった。案内状の一文に

彼らの思いが込められているので、紹介してみたい。

『・・・本校では、「ともに在ることを大切にする学校の創造」を研究主題に掲げた教育活動が展開されています。生徒会保健委員会では、この主題に沿って自分たちも他者との関係作りのあり方や方法について学ぼうという話し合いを重ねてまいりました。この会は私たち生徒が周囲の人とのよりよい人間関係作りのために、自分たちにできることは何かを考えようとする会です。まだまだ未熟な取り組みですが、ご家庭でも話し合われるきっかけとなれば幸いです。・・・』

(4) 「子どもたちの健康を考える会」当日の活動状況から

＜発表風景＞

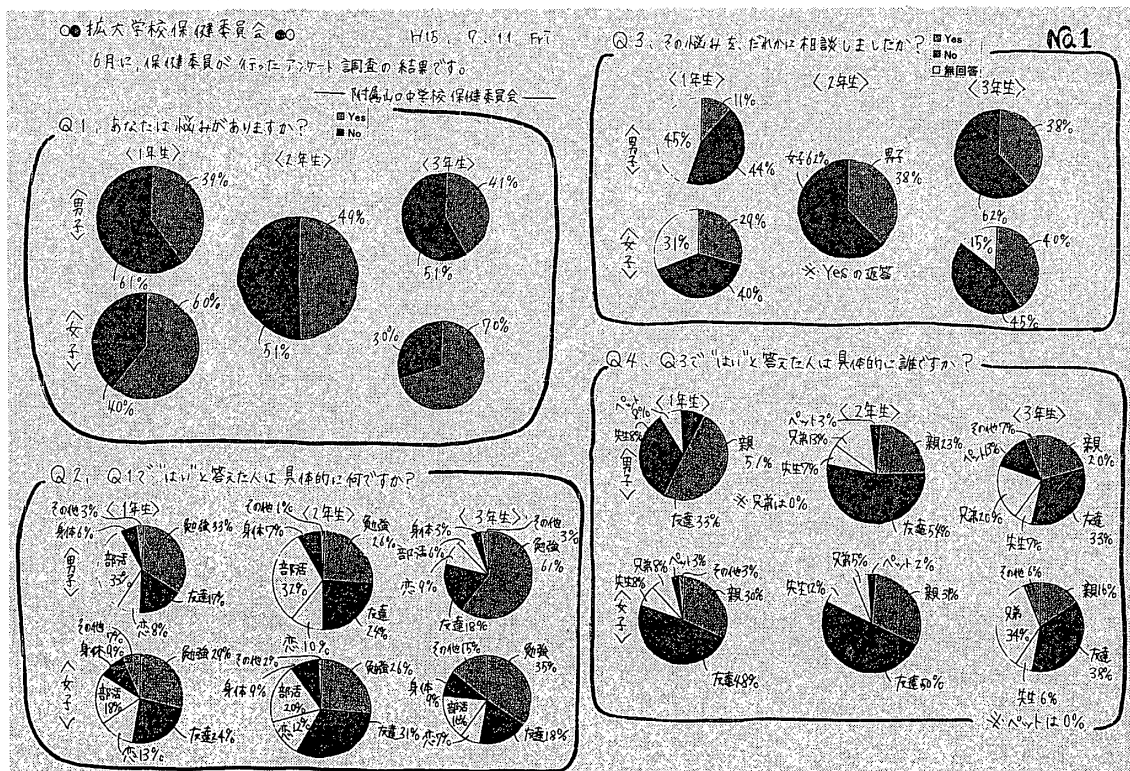


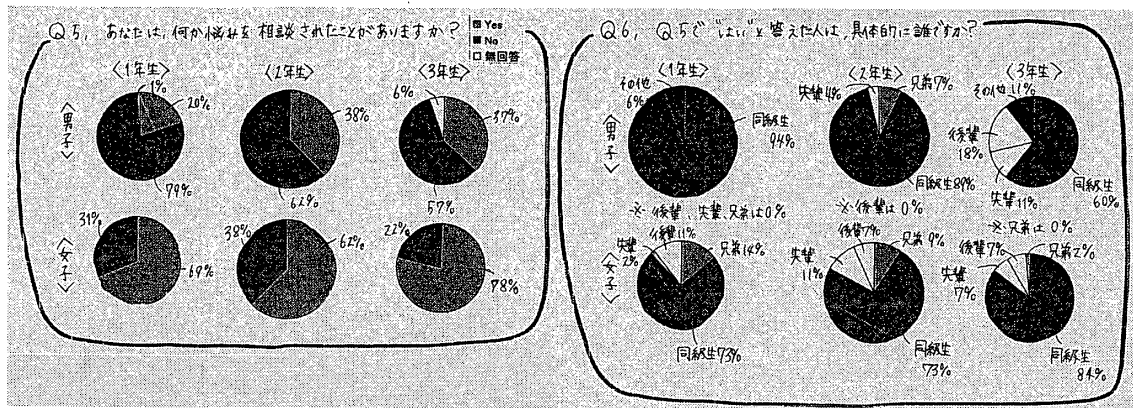
＜演劇風景＞



(演劇あらすじ) 友だちから無視されているように感じ、不安を抱え落ち込んでいた女子生徒が、周囲の人から支えられながら自分の悩みを友人にうちあけ、誤解だったことがわかる・・・といった内容を学校や家庭といった身近な日常生活の中で表現している。

＜アンケート調査結果と発表内容＞





<発表内容>

今から先日行ったアンケート結果の報告をしたいと思います。まず、1年生のアンケートの結果ですが、「あなたは悩みがありますか」「その悩みとは何ですか」という質問では、男子はNO、女子はYESと答えた人がやや多かったようです。その内容については、男女とも「勉強」「友だち」「部活」という答えが多いようでした。これは、中学校に入って、小学校とは違った学習や部活などで戸惑いが生じたからだと考えられ、友だちのことで悩んでいる人が多かったのは、公立小学校と附属小学校から進学していることで、見えない壁があるのではないかと思います。また、女子は複数回答をしている人が多く、いろいろな種類の悩みを抱えながら生活していることが分かりました。

次に3番目の質問の「その悩みを誰かに相談しましたか」という項目では男女ともNOと答えた人の方が多かったです。その理由として考えられるものは、自分のことを言うのが恥ずかしいとか、みんなに心配をかけたくないから、あるいは相談する相手がいないからといったことが考えられます。

「話を聞いてもらってどんな気持ちになりましたか」という質問に対しては、男女とも同じように「話を聞いてもらって楽になった」「少し不安が解消された」という、相談して良かったという意見が多かったです。

最後の「悩みを相談されたことがありますか」という質問では、圧倒的にNOと答えた人が多かったです。これは、3番の質問とも関連しているからだと思いました。そして、YESと答えた人は「同級生」という人がほとんどで、親しい友だちなら話せるという人が多いようです。また相談されたときの気持ちはどうでしたかという質問に対しては、「頼りにされていると思い、嬉しかった。」「どう答えればよいか迷った」「愚痴を聞いているみたいでいやだった」といった意見がありました。

続いて、2年生のアンケート結果です。「悩みがありますか」という質問では、男子は「ある、ない」が半々ぐらいなのに対して、女子は「ある」と答えた人が多かったようです。悩みの内容については、男子は部活という答えが多く、そろそろ上級生と代が替わるということ意識し始めているからだと思いました。女子では「上下関係」や、「友だち」、「クラス」のことなど人間関係で悩んでいる人が多かったです。

悩みを相談したかという質問では、男子より女子の方がYESと答えた人が多かったです。どちらも共通して言えることは、相談相手は友だちと答えた人が一番多かったということです。そして、その時の気持ちは「心が落ち着く」「優しく接してもらって嬉しかった」「すっきりした」など、プラスの意見が多いという結果でした。

また、相談されたことがあるかという質問では、男子はNOという答えが多く、女子はYESと答えた人が多かったのですが、男女とも同級生から相談されたという人が多く、これも1年生と同じ理由だろうと思われます。その時の気持ちはどうでしたかという質問では、1年生と同じく「頼りにされて嬉しかった」という意見が多かったのに加えて、「自分も何かしてあげたいと思った」「同情した」など、1年生とは違った感想も聞かれました。これは2年生になって少し成長し、心にも余裕ができてきたからではないかと思いました。3年生については、やはり進路のことが迫ってくるため、勉強の悩みが圧倒的に多くなっています。傾向としては、だいたい2年生と同じく女子が同級生からの相談を受けている例が多いことがよく分かりました……。

この会の後、生徒たちは各学級において保健委員会の生徒からの発信を受け感想文を書いた。参加した保護者からの感想は、保健だよりに掲載し全家庭に配布した。(資料1)

3 結果及び考察

支え合いについて学ぶこの会を企画運営していく過程において、保健委員長はなかなかリーダーシップがとれず悩んでいた。その保健委員長をずっと支え続けてきた副委員長が、会の当日始めの挨拶の中で語ってくれた言葉を紹介してみたい。

私たち保健委員会は、今年のテーマを「しっかり聞こう 支え合おう～友と家族と先生と～」として設定し追求してきました。私たちは、日頃からお互いに支え合い助け合いながら生きています。それは普段意外と当たり前すぎて気付かないことかもしれません。けれど、私たちの周りには、友だち、家族、先生など自分でも知らないうちに自分のことを心配してくれていたり、配慮してもらったりすることがあります。癒される温かい場所もあります。そこで、今回全校生徒のみなさんと日常あまりじっくり考えることのできない、人と人の支え合いについて考えてみたいと思います。ひよっとすると自分たちは支えてもらうだけでなく誰かを支えているかもしれません。

彼女は悩んでいる委員長を支えながら、他のメンバーとの調整役・パイプ役をこなしていた。様々な学校行事や校外行事と重なり、わずかな限られた時間内での活動を支えたのは、彼ら相互の協力や連帯感、目標達成に向けての仲間同士の援助力であったと思う。

今回の拡大学校保健委員会で全校生徒が書いてくれた感想文の中には、このような意見があった。

この生徒は悩みを持つことを一つの成長の証として考えていて、悩みを持っている自分自身をそれでいいと肯定的に受け止めている。悩みをある程度自分の中に残しておくことも自分の成長につながることを知っているのである。しかも、言わなくても黙って一緒にいるだけでも心が落ち着くそういう支えもあると言っている。自分自身と深い部分で向かい合っている様子うかがえる。ひとりになっていても自分は支えられている存在なのだということを分かっているのである。この感想は中学生時期の育ちにどう関わればよいか示唆を与えてくれた。

子どもたちは決して無力な存在ではない。親や教師である大人が子どもたちの持つ力に助けられ、逆に教えられることは学校現場においても少なくない。むしろ、子どもたちに

内在するその能力や感性に驚かされ、心を洗われるような思いをすることがある。

今回、生徒が中心になり取り組んでいる“支え合い”の学びの中でもその思いを実感することができた。生徒が主体となる活動を通して、自己の持つ資質や資源に少しでも気付くことは、生徒自身の自己実現のための体験のひとつになるのではないだろうか。

今、生徒たちは全校生徒の書いてくれた感想をもう一度丁寧に見直す作業を続けている。彼らの今年度のテーマである「支え合おう～友と家族と先生と 広げよう仲間たちへ～」の“広げよう仲間たちへ”の部分への挑戦をしようとしている。全校生徒からでてきた感想の中には、「人との接し方で具体的な聞き方の方法をもつ

と知りたい。」「きちんと向かい合って話を聞くということは、その人の存在を認めているのだという言葉が強く印象に残った。人から頼られる自分になりたい。そのための自分の生き方を考えてみたい。」といった意見も出ていた。こういった真剣な態度で学ぼうとしている貴重な声を見逃さず、保健委員会活動に生かそうとしている。保健委員長が4月に提案したように、保健委員会だよりもこういう感想をシリーズでとりあげ、分析し、それに対する友定教授からのコメントや助言を今後も掲載しようとしている。(資料2)彼らは、教授とのメールの交換をとっても楽しみにしている。

子どもたちの力は、大人の想像以上に自由でのびやかである。彼らはその取り組みの方向性を示すための助言や、専門機関との連携、周囲からの見守りの中で、自分たちの持つ本来の力を発揮する。学校という仲間が集う場所に、ハッピーファクターをたくさん見いだすための保健委員会活動であってほしいという願いを持ち、子どもたちの内に潜む力を信じ、彼らの活動に寄り添っていきたい。他者と共に生き、つながり、その中で自己の確かさを見いだしていくための活動を生徒自身の力で創り出し、発信し続けてほしい。何よりも、彼ら自身が仲間にとってかけがえのない援助者であるのだから。

<引用文献>

黒沢幸子「指導助言に役立つスクールカウンセリング・ワークブック」金子書房(2002) 135頁

<参考文献>

滝 充「ピア・サポートではじめる学校づくり」金子書房(2001)

—生徒使用—

○ 拡大保健委員会の感想 ○

(3)年 男 or 女

今回、保健委員は、しっかり聞こう、支え合おう～友と家族と先生とへというのテーマに、みなさんに発表しました。そこで、みなさんに、このテーマ発表を聞いての感想を書いてもらいたいです!! 今後の保健委員会のためにご協力をお願いします!!

♡ 私は最初の刺を見て、悩みをいっても大切だと思った。だけど、いつもいつも悩みを言うのは私は嫌だと思ってる。たしかに悩みを言ってもスッキリさせることも大切。でも、少しは自分の中に残しておくことも大切だと思ってる。それを言うことによつて後悔したり、言え自分が信じられなくなるときがあるから。だから私は悩みを言うときも言わないときもある。それで私はいいと思ってる。言わなくてもいいよにいるだけで落ちつくときもあるから、そういうのも“支え”のひとつだと思ってる。全話も大切。だまっておくのも大切。そうやって人は生きていくものだと思ってる。まわりの人のことを分かりたい。でもそのためには自分のことも知らなければならぬと思ってる。ひとりになつてるときも支えられているんだと思ってる。



ほけんたより 7

山形県立山形高等学校保健委員会 No.4 2003.7.17(木)発行

今月の保健目標

暑に負けない 体をつくろう



保護者の皆様 たくさんの御参加ありがとうございました

初めは少し暑く感じましたが、子どもたちも暑が合々貴重な時間となりました。今回は参加した保護者の方の感想の中からいくつかを、お返ししたいと思います。

北風が変化の激しい時期を身近に感じ、夏に備えて、体調管理に気を配る。親子で一緒に運動をすることで、親子の絆が深まり、親子のコミュニケーションがとれる。親子で一緒に運動をすることで、親子の絆が深まり、親子のコミュニケーションがとれる。

保護者の皆様、お忙しい中、ご参加いただき、誠にありがとうございました。子どもたちの成長を一緒に喜びたいと思います。今後も、学校とご家庭で協力して、子どもたちの健康を大切に育んでいきたいと思います。

子どもたちの健康を考えた会を立ち上げました

(拡大学校保健委員会) 七月十日(金)に、保護者の方と先生、子どもたちで「子どもたちの健康を考えた会」を立ち上げました。梅雨の季節は、湿度が高く、気温も高くなるため、子どもたちの健康に気をつける必要があります。この会では、保護者の方と先生、子どもたちで協力して、子どもたちの健康を大切に育んでいきたいと思います。

親子で一緒に運動をすることで、親子の絆が深まり、親子のコミュニケーションがとれる。親子で一緒に運動をすることで、親子の絆が深まり、親子のコミュニケーションがとれる。親子で一緒に運動をすることで、親子の絆が深まり、親子のコミュニケーションがとれる。

保護者の皆様、お忙しい中、ご参加いただき、誠にありがとうございました。子どもたちの成長を一緒に喜びたいと思います。今後も、学校とご家庭で協力して、子どもたちの健康を大切に育んでいきたいと思います。

保健の会 だより NO.2

特支会合について学がれた拡大保健委員会 (7月11日(金)曜日実施) 特別号はじり

1年女子

少し前のことですが、「しりとり」の会合がありました。友と家族と先生と、というテーマでみなさんに発表しました。そこで、あの時のみなさんから書いていただいた感想の一部を掲載しました。たくさんの感想をありがとうございました。

2年女子

今回の保健の会、とても楽しかったです。先生もたくさん話を聞かせてくれて、とても勉強になりました。これからも、学校とご家庭で協力して、子どもたちの健康を大切に育んでいきたいと思います。

3年男子

今回の保健の会、とても楽しかったです。先生もたくさん話を聞かせてくれて、とても勉強になりました。これからも、学校とご家庭で協力して、子どもたちの健康を大切に育んでいきたいと思います。

お☆し☆ら☆

●今月の委員会活動 ●「17日(病棟)の保健の会」を開催しました。出入りのコーナーや、しりとり、けいものあるゲームなど、誰もが楽しめるように、保健委員みんなが口ずかしていきますので、ぜひ参加してください。協力、ヨロシク!!

自分では何が原因かわからないけど、いられたり、人にあつたり、大声で叫びたくなったり、むかついたりするのはありませんか? 中学生期は「自分さがし」をする時期です。そのため「自分さがし」をすることもよくあります。友だちや親、先生など身近な他者を過度に意識して、自分について否定的な傾向、つまり自分は勉強ができない、容姿が悪い、必要とされていないなど、他の人と比べて欠点だけが目につくことです。その結果、友だちにも言えずに、一人で悩んで苦しむことも多く、問題行動に走ることもあります。この間のスランプのような例はよくあることです。そんな様子の人に気づいたら、「私にできることがあったら、言ってみようか?」と声をかけてあげてください。

自分さがしをする、よめる時の相手への言葉に、もう少し具体的に教えてほしいという意見が多数ありました。この場合はこうしなさい、というマニュアルはありません。相談する相手、つまり自分の話を聞いてくれる人がいることが大切です。他者の話を聞いてあげる姿勢をもつということです。まず相手の話を無条件に受けとめて、自分の考えを求められるなら、自分の感じたことや経験、考えを話します。